

国際交流

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。平成20年2月には国際交流センターを設立し、戦略的な国際交流を進めるための体制が整いました。

外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

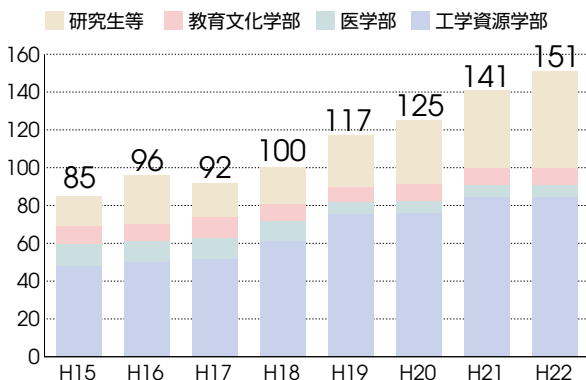
留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。

平成21年度には私費外国人留学生のための、本学独自の奨学金(秋田大学私費外国人留学生奨学金)を創設しました。これにより、協定校等からの成績優秀な留学希望者に対し、奨学金を支給できるようになりました。

また、ODA対象国からの私費留学生に対し、勉強するために必要な資金を貸与できるよう、国際連合大学と協力大学の協定を交わしました。これまでに延べ62名の留学生に対し資金貸与を行っています(平成22年4月現在)。

日本学生支援機構の留学生交流支援制度(短期受入れ)に「秋田大学国際交流体験プログラム(AUEP)」が採択され、奨学金の受給枠が増えたことにより、協定校からの交換留学生の増加につながりました。このプログラムは平成22年10月から開始され、体験型のマルチ・リンガル授業や、英語による専門的な授業により、コミュニケーション能力の獲得や秋田の文化に対する理解を目指します。

〈留学生数の推移〉



平成22年4月には、多様な言語を自律的に学べるスペースとして「多文化交流ラウンジ」が新設され、海外研修報告会や留学生との交流イベント(「お茶っこ飲み」等)が行われています。



多文化交流ラウンジ

国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。平成21年度は3名がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学学生海外派遣支援事業」を実施しています。これは往復に要する旅客運賃(片道10万円限度)を支給するもので、平成21年度は3名に対して支援を行いました。



国連大学育英資金受給者への学業報奨金授与式

世界に広がる学術ネットワーク

平成21年度は大学間協定を8校と、部局間協定を2校と締結しました。これにより、大学間協定は14カ国・地域29大学、部局間協定は9カ国・地域15学部等となりました(平成22年5月1日現在)。今後も、協定校との学術交流、学生交流を推進し、積極的な国際交流をすすめていきます。



モンゴル科学技術大学との調印式(平成21年10月22日)

秋田大学の地球力－100年の知を「地球」の発展のために！

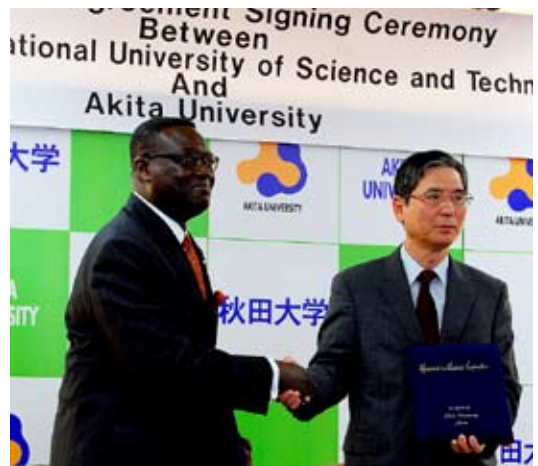
秋田大学は、昨年10月に開設した国際資源学教育研究センターを中心に、ボツワナ共和国に設立される大学づくりの支援を行っています。

ボツワナ共和国は、アフリカ南部に位置する人口約180万の国。ここにはニッケル鉱石などの、いわゆるレアメタルと呼ばれる貴重な地下資源が豊富に眠っているとされています。そこで、資源開発を担う人材を育成しようとボツワナ2番目の国立大学として2011年に「ボツワナ国際科学技術大学」が新たに設立されることになり、資源工学で実績の高い本学が、その支援にあたることになりました。教員の派遣、カリキュラム構成、施設整備等の対応を含め、幅広い領域で本学が有するノウハウをボツワナ共和国の新たな大学づくり、そして人材育成に活かしていくこととなります。



明治43年の秋田鉱山専門学校設立から数え、約100年。秋田という地で培われてきた鉱山の技術が、ボツワナ共和国の国を挙げての事業に貢献することになります。

ボツワナ国際科学技術大学とは昨年10月23日、国際交流協定を締結。教職員・研究者・学生の交流促進をはじめ、資源開発等の研究において、相互に協力を図っていくことを誓い合いました。



協定の様子／秋田大学手形キャンパスにて吉村昇学長(右)とクウェク・ベンティル学長